

図1：アルコール不安定乳について

- アルコール不安定乳は、70%エタノールを等量混合した時に凝固物の生じる生乳のこと
- 高酸度乳(酸度0.18%以上)と低酸度乳(0.18%未満)に分類
- アルコール凝固の原因は、
高酸度乳では生乳中の細菌数の増加によるもの
低酸度乳では①環境的要因、②潜在性疾病、
③内分泌的要因、④飼料的要因等
が考えられているが、未だに明確にはされていない

⇒細菌数の増加がみられず、酸度が0.18未満のため、
低酸度アルコール不安定乳(酸度0.12~0.17%)と判定

表1：成績①

- 乳質改善のため、給与飼料の改善を指導し、代謝プロフィールテスト(以下MPT)を3回実施

採材月日		分娩月日	Glu	T-Chol	T-Pro	ALB	BUN	GOT	GGT
MPT 1回目 R1.6.26	A	R1.6.2	46	69	6.4	3.1	4.9	119	16
	B	R1.6.5	20	95	5.8	2.2	3.7	71	16
	C	R1.6.7	35	67	4.1	1.9	3.4	128	47
	D	R1.6.16	44	52	5.1	1.8	3.6	81	14
		平均	36	71	4.5	2.3	3.9	100	23
		標準	52~62	135~227	7.6~9.0	3.9~4.3	12~18	56~84	25~31

- 分娩後の6月下旬のMPTは4頭全て低栄養状態
- BCSも2.0~2.25と低く、著しく削瘦
- 【原因】搾乳開始後も育成期用配合飼料を給与している上、乾草や配合飼料の給与量も少なく、DM、CP、TDNが不足
- 畜主が飼料会社と相談し、搾乳期の飼料設計を実施

表2：乳質改善対策前後の飼料設計

	内容	対策前	対策後
粗飼料	オーツヘイ	4.2kg	—
	チモシー	4.2kg	12kg
配合飼料	育成用	7.5kg	—
	乳牛用	—	11kg

	項目	対策前	対策後
充足率	DM	70.9%	103%
	CP	71.1%	121%
	TDN	82.5%	121%

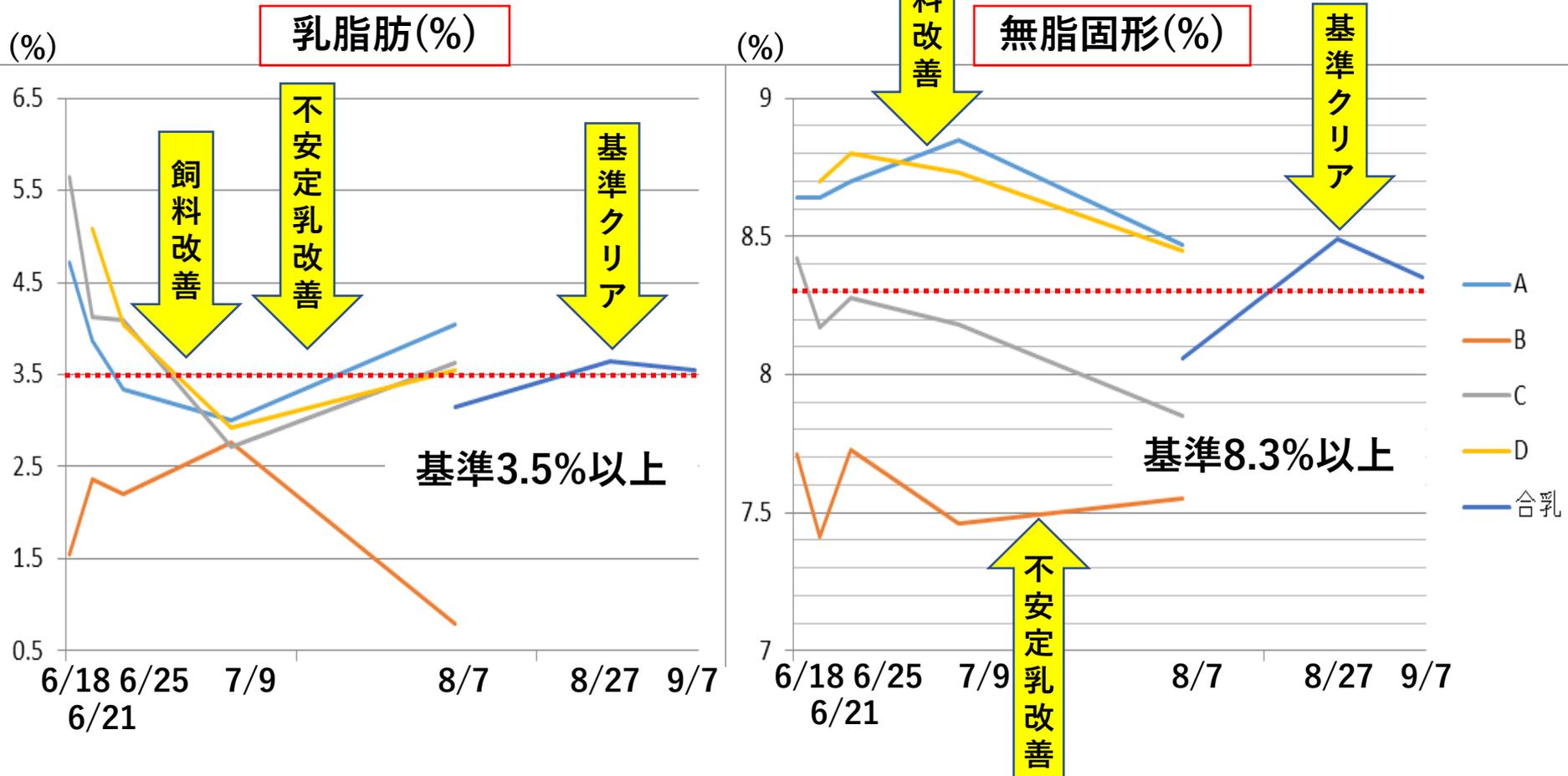
- 体重500kg、乳量20kg、乳脂肪3.5%で計算
(日本飼養標準・乳牛2017年版より)

表3：成績②

採材月日		分娩月日	Glu	T-Cho	T-Pro	ALB	BUN	GOT	GGT
MPT 2回目 R1.7.8	A	R1.6.2	35	110	6.1	3.2	8.8	101	13
	B	R1.6.5	49	107	6.5	3.2	6	67	21
	C	R1.6.7	39	92	6.6	3.2	8	83	46
	D	R1.6.16	46	72	6.8	2.9	4.5	94	17
		平均	42	95	6.5	3.1	6.8	86	24
MPT 3回目 R1.8.5	A	R1.6.2	39	100	6.3	3.3	18.8	87	14
	B	R1.6.5	35	118	7.4	3.6	20.9	64	23
	C	R1.6.7	33	115	7.1	3.4	19.9	22	33
	D	R1.6.16	36	83	7.9	3.6	12.9	86	24
		平均	36	104	7.2	3.5	18.1	65	24
		標準	52~62	135~227	7.6~9.0	3.9~4.3	12~18	56~84	25~31

- 7、8月のMPTは飼料の変更に伴い徐々に改善

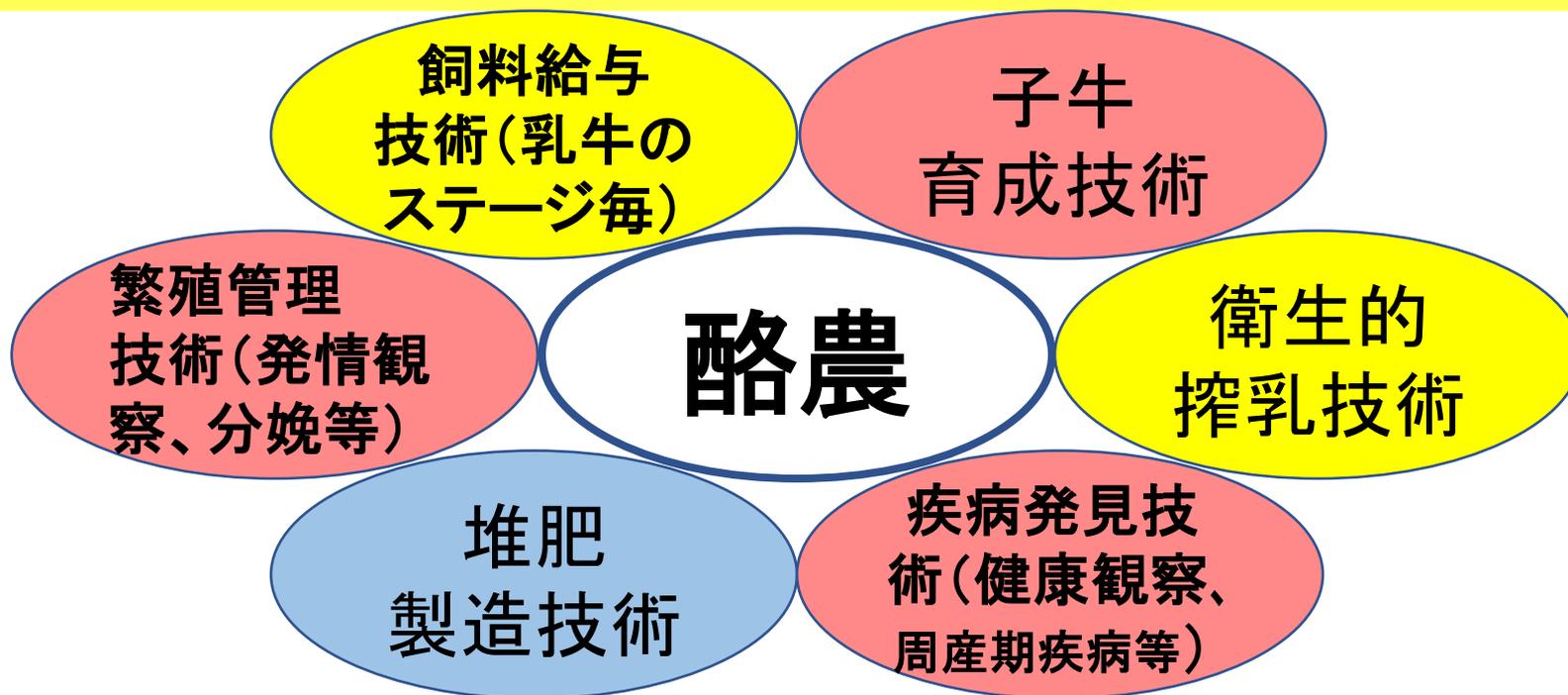
図2：乳質の推移



- 乳質検査は、7月中旬にアルコール不安定乳が改善、9月上旬に基準を達成したため、**乳質の安定が確認されれば出荷可能な状態**にまで到った

図3：まとめ

- 搾乳が一時中断しているが、経営者と新たな従業員には、搾乳再開までに飼養管理技術習得が必要



- これまでの経験を生かし、また、他農場での研修を実施し、飼養管理技術を向上できるよう、関係機関と協力し、継続して助言や指導を行い、経営を安定させていく